

大学生の語りから考える日本の LGBT 受容に関する一考察

1555306 近藤真央 指導教員 藤掛洋子

現在の日本では、LGBT という言葉がメディアなどでも幅広く報じられ、少しずつ LGBT が身近に感じられるようになってきている。しかし、用語として広まりつつも LGBT に対する理解や配慮が浸透しているわけではないのが現状である。よって本論文では、LGBT に該当しないマジョリティに属する異性愛者の若者に対して、LGBT に関する印象を尋ねるインタビューを実施し、現代の日本で LGBT の受容を高めるにはどうあるべきなのかを考察することを目的とする。

本論文では、まず LGBT を含む多様な性について言及する。次に、日本とアメリカやオランダ等諸外国における LGBT や同性婚について論じた。その次に、LGBT に対する差別を生みだしているマイクロアグレッションの概念に言及した。最後に日本の若者がどのような印象を LGBT に対して持っているのかを調査するためインタビューを実施した。

以上の調査・研究の結果、LGBT の社会における受容を高めるには、マジョリティの側が LGBT との接触を持ち、関わっていくことが必要であると明らかになった。今後、LGBT フレンドリーな日本という状況を作るためには、自然と人々が LGBT と関わる環境の造成、整備が求められる。そのためには、教育面、特に義務教育段階での LGBT に関する教育の拡充が必要となるだろう。多様な性についての教育の義務化や当事者と会う機会を増やしていくことで、日本社会における LGBT の受容を高めていくことが可能である。